

「日本とフランス、明日の国際社会を考える」

2004年7月2日、ベルナール・ド＝モンフェラン フランス大使講演会

日仏友好の歴史は国際関係の原点を示している

日仏交友の歴史を振り返ることによって、現在の、国際社会の問題解決の糸口を見出すことが出来る。日本とフランスは、地理的にも遠く、宗教的にも文化的にも異なる国であるが、違いを超えて理解し合う努力を続けてきた。文化の多様性を認め合い、そしてそれを尊重し、互いの伝統文化を大切にすると、いう国際関係が必要とされている。日仏交流は、その原則を守ってきた。そして、日本とフランスは、文化的、教育的、経済的な緊密な友好関係を作り出した。しかも、その視点に立って、国際問題を解決するための行動を共に起こすことが出来る関係が、形成されようとしている。

国際平和を維持するために、民主主義のルールに基づき、国際社会が参加する機関によって、問題を共に解決する必要がある。国際社会が一致団結し、場合によっては、軍事行動も辞さない断固とした姿勢を持ちながらも、常に、交渉し続ける態度が必要である。昨年、フランスは、平和維持活動のために、27の地域に、約15000人の兵士を派遣した。

日仏は共同で、国際平和を維持するために、貢献していく関係でなければならない。日本は、アジアの国として政治的に安定した民主主義国家であり、この地域の安定のために貢献する力量は十分にある。実際、世界平和維持活動にも積極的に参加している。だからこそフランスは、日本が国連安保理の常任理事国になる事を望んでいる。

新しい制度を作りながら平和に貢献する欧州連合

約50年前に、ヨーロッパ大陸で戦争があった。欧州連合が形成された今、ヨーロッパで紛争が起こることは考えられない。50年以上、共産主義国家であった中央ヨーロッパや東ヨーロッパの国々が、民主的で自由な国になって欧州連合に参加するようになった。EUは、ヨーロッパの平和に貢献している。約5億人の人口を持ち、ユーロという単一通貨を作り、政治的安定、経済的繁栄にも貢献している。

EUでは、多くの政府の連合と多くの民族の連合による二つの制度が同時に存在するという、従来は存在しなかった新しい制度が誕生している。

EU参加の国々は、お互いの意見が食い違っても、違いを率直に言い合える関係が成り立っている。この信頼関係は、一つの力になっている。

今年5月1日から、EUは15ヶ国から25ヶ国に拡大したため、制度上の問題が発生している。例えば、欧州連合の憲法制定、代表者の任期期限の延長、安全保障と欧州統一軍の形成、共通の司法機能の形成と内部の治安のための警察組織、経済的発展のための先端科学技術の欧州全体での開発機能の形成などである。

また、同じ問題に対して、政策の進展状況が国によって異なる場合がある。そこで、EUの内部で政策決定や施行の時期についての自由が、ある程度、保障されている。

アジアの安定のための日本とフランスの役割

文化的多様性を尊重し、相互理解のための交渉を重ねると言う点では、ヨーロッパと日本の外交は共通している。東チモール、アフガニスタンやボスニアでの日本の国連平和維持活動を、フランスは高く評価している。また、日本と協力して、イラクの復興に関わっていききたいとフランスは考えている。

欧州連合を組織化することによって、ヨーロッパでは大きな利益がもたらされている。アジアでも、横のつながりを軸とした組織作りによって、地域が安定し強化されることは間違いない。しかし、アジア地域には民主主義国家でない国があるなど、ヨーロッパと同じ状況ではない。だが、アジアは、地域的に相互依存の関係を作り、地域内の投資、貿易高を増やししながら、経済面から大きく変わろうとしている。アジアの将来を見据えて、協議できる組織や制度などの枠組み作りが必要となる。フランスは、日本が積極的にそのために動いていることを高く評価している。

アジアには、ASEAN（東南アジア諸国連合）が中心となった、地域の安全を考えるフォーラムがある。これにも日本は積極的に関わり、この地域での自由貿易協定を働きかけている。ヨーロッパが全ての手本になるわけではないが、幾つかの教訓を示唆することが出来る。その一つは、地域的な統合を作り出すためには、経済的な相互依存関係では不十分で、強い政治的意志が必要であるということだ。

フランスは、アジアとの対話を熱望していたので、EUの議長国であった1996年に、フランスの発案によって、1996年、ASEANと日中韓を加え欧州連合15カ国の首相と欧州連合の代表が集まって開かれる会議ASEM〔アジア欧州会合〕を作った。

日・米・欧の関係が三角形であるとすれば、日本とアメリカ、ヨーロッパとアメリカはそれぞれしっかりとした友好関係という軸で結ばれている。しかし、日本とヨーロッパの関係はまだ不十分なので、正三角形には成り得ない。ヨーロッパは、アジアとの良い関係や対話を望んでいる。世界の平和と安定のために、アジア、ヨーロッパのユーラシア大陸を繋ぐ友好関係、アメリカ、ヨーロッパ、日本と世界を繋ぐ正三角形の関係が形成されることが望ましい。

日本とフランスの関係が、そのために貢献している。日仏間には、長年の文化交流の結果として、相互に良い印象を持ち、魅力を感じ合っている。関西日仏学館は、その最も素晴らしい一つの例である。この関係を活かし、政治的な対話の実現し、経済的な関係も強化された。

日仏友好の文化を作り上げたものは、二つの国が寛容な文化を持ち、友好関係の歴史を築いて来たからである。未来の世界平和を築くために、私たちは、文化の多様性を尊重する心の広さを持ち、同じ方向性を目指すべく努力してきた日仏の経験を活かし、それを基調とした新たな平和のルール作りを世界に提案したい。

そのためにも、日仏の交流は、さらに、経済面、先端科学技術開発でもいっそうの発展が望まれ、共に協力しながら、未来のために前進していくことが希望されている。

私に今回の講演の機会を与え、これまで長い間日仏文化交流に貢献し来られた京都日仏協会にあらためて感謝したい。

(要約編集文責 三石博行)